

電子複写不可

大東亞戦争 戦時日誌

第四海上護衛隊

自昭和十九年四月  
至昭和二十年四月

防衛研修所戦史室

④  
戦時詳報  
戦時日誌  
18.



0290

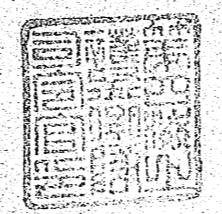
功績調查部長 殿

四海護機密第三三號ノ三

軍機  
自昭和十九年四月十日  
至昭和十九年四月三十日

◎ 第四海上護衛隊  
沖繩方面根據地隊 戰時日誌

六月八日



第四海上護衛隊司令部  
沖繩方面根據地隊

19.7.1  
接文

一 經過 目次  
 二 人員ノ現状  
 三 令達報告等  
 四 作戰經過概要

(目次終)

自昭和十九年四月十日 第四海上護衛隊 戰時日誌  
 至昭和十九年四月三十日 神繩方面根據地隊

一 經過  
 (一) 敵情

敵ハ東海敷設機雷礁ヲ探知セルモノ、如ク之ガ爲南西諸島方面ニ於ケル敵潛ノ出現増大シ其ノ活動漸次活潑化シツアリ  
 本月中當隊担任海面ニ於ケル出現狀況、如シ

日及時刻	被襲艦艇	位置	置	記	事
十二日〇三〇五	台中丸	N二八〇〇八 E三八一五七			台中丸被雷擊沈没敵潛襲
十四日一六〇〇		N三〇〇四八 E二三一四七			ラシキモノ稍不確實
十五日二二〇〇		N二五〇三〇 E二三一一五			誤差有
十六日二〇〇〇		N三〇〇〇六 E二三八一〇〇			誤差有
十六日二〇〇〇		N二六一一五 E二三一〇〇			誤差有
十六日二二〇〇		N二一一一五 E二二八二七			誤差有
十七日一九五五		N二五〇三〇 E一三六三〇			誤差有
十八日〇〇三五		N二四一二六 E一三一三二			神大東島被砲撃
十八日〇〇三五		N二五一〇〇 E一三一三五			誤差有
十八日〇〇〇〇		N二二一三〇 E一三一三〇			誤差有



四支那東部ニ在支米空軍逐次増強セラレツアリ  
 今後敵空襲ニ對シテ嚴ニ警戒ノ要アリ  
 (一)我が軍ノ狀況  
 (二)四月中ニ於ケル各部隊ノ行動率  
 一次ノ通  
 護衛部隊五五% 大島部隊五三% 沖繩部隊五二%  
 (三)直接護衛

二十一日二二一〇	油槽船	N二六二三五	E三三三〇三	第一振南丸探知
二十四日〇一三五	油槽船	N二六二四三	E三〇一三五	陵水丸被雷撃沈没
二十四日二一四〇	油槽船	N二八一〇	E三三三〇	水中測的 確実
二十四日二二〇〇	油槽船	N二六二〇〇	E三三九〇〇	誤差有
二十七日〇三三〇	油槽船	N二七一〇	E三三八〇六	〇四五五武丸被雷撃沈没 〇九七七武丸被雷撃沈没
二十七日一四三〇	油槽船	N二八一二	E三九一三	護衛用漁船發見敵潛撃手沈
二十八日一〇〇〇	油槽船	N二七一〇	E三三二七	第一振南丸發見稍不確実
二十八日二〇〇〇	油槽船	N二五二〇	E三三二〇〇	〇〇
二十九日一四二八	油槽船	N二八一三	E三八一五五	掃一五被雷撃損害ナシ
二十九日二〇〇七	油槽船	N二六一三	E三六四四	久米島被砲撃手
三十日〇二〇〇	油槽船	N二二一〇	E三三二〇〇	誤差有
三十日一四五五	油槽船	N二六一二	E三三二〇〇	油槽船被雷撃手沈没

日	船番號	隻數	總噸數	護衛艦	乾	園	記	事
九	沖九〇七	八	二九九二二	五十一掃州丸	那覇	古仁屋	敵潛一被雷撃沈没	
〇	鹿〇〇四	五	三九四七	燕八長運丸	古仁屋	那覇	敵潛一被雷撃沈没	
一	十二〇二	二	三一四一	姫島丸	石垣	那覇		
一	沖二〇二	四	一四九六	關丸	基隆	那覇		
一	夕六〇二	二	一〇二五	三南薩丸	船浮	那覇		
一	夕七〇三	三	一九〇〇	三號報國丸	慶良間	基隆		
一	夕七〇五	三	一九四六	三號報國丸	古仁屋	那覇		
一	沖八〇三	三	六一八三	三號報國丸	船浮	那覇		
一	鹿八一三	二	二五二二	三號報國丸	那覇	古仁屋		
二	夕四〇四	四	三一三七	三號報國丸	那覇	基隆		
二	沖五〇九	九	九八〇六	三號報國丸	那覇	古仁屋		
三	鹿五〇八	八	二七八九	三號報國丸	那覇	古仁屋		
三	沖〇〇四	四	一二一八〇	三號報國丸	那覇	古仁屋		
三	鹿〇〇四	三	三九	三號報國丸	那覇	古仁屋		

協同 12~14  
HUK

航空部隊各船因直衛ヲ要員施スルト共ニ各擔任哨正ノ哨戒ヲ要員施セリ  
對潛掃蕩

- (1) 四月十二日〇二〇五N二八一〇八E二二八一五七ニ於テ燕護衛ノ鹿〇〇四船國中ノ台中丸敵艦ヲ雷撃ヲ受ケ沈没。燕八直ニ射點附近ニ爆雷攻撃ヲ加ヘタルモ夜間ノ為効果不明。駆替四九八十七駆替特務艇新井崎及護衛用漁船七隻ヲ急派飛行機ト協同掃蕩セシメタル處。燕一〇〇曾津高崎ノニニ度ニ六哩ノ地點ニ於テ徑四米ノ氣泡湧出スルヲ發見更ニ爆雷攻撃ヲ加エ嚴重監視スルニ一六〇〇ニ至ルモ氣泡依然トシテ同位置ニ於テ多量ニ湧出スルヲ確認附近ヲ探知續行スルモ敵情ヲ得ズ。爾後掃蕩ヲ續行セシモ手掛ヲ得ズ。時刻、位置、海深、氣泡、徑其ノ湧出持續時間等ヨリ判断シ撃沈確實ト認メタルヲ以テ十四日一四〇〇掃蕩ヲ止ム。
- (2) 四月十七日ニ三五一沖大東島見張所敵艦ニ隻ノ砲撃ヲ受ケタルヲ以テ十八日〇五四〇沖繩空飛行機ヲ急派搜索攻撃セシメタルモ敵情ヲ得ズ。
- (3) 十七日一九五五對潛警戒報(方位測定)ニ依ルN二五十三〇E二二二〇ノ敵艦ニ對シ関丸第八長運丸ヲ急派飛行機ト協同掃蕩セシメタルモ敵情ヲ得ズ。

HUK

- (4) 四月二十七日〇三三〇N二七二〇三E二二八一〇六ニ於テ鴨護衛ノ沖五〇九船國敵艦ヲ雷撃ヲ受ケ鴨八直ニ射點附近ニ爆雷攻撃ヲ加エタルモ效果不明。第十六昭南丸第六博多丸大斗丸ト對潛掃蕩中〇四五五N二七二一六E二二八一〇二ニ於テ玄武丸被雷沈没更ニ〇九七N二七二一八E二二八一〇二ニ於テ鴨被雷沈没セルヲ以テ第七利丸第七博多丸ちとせ丸第十三長運丸太安丸第五大成丸第五十一播州丸ヲ急派飛行機ト協同攻撃セシメタル處。一一二九沖空飛行機鴨沈没點南方約三料ニ敵艦ノ曳油ヲ發見爆撃ヲ續イテ飛行機誘導ニ依リ一二三第十六昭南丸第六博多丸協同攻撃多量ノ油湧出一四四五第七利丸爆雷攻撃氣泡ヲ湧出シ更ニ艦艇飛行機ノ緊密ナル協同攻撃ニ依リ半径五〇〇米ノ油紋盛ニ湧出スルニ至リタリ。爾後掃蕩ヲ續行セルモ敵情ヲ得ズ。敵艦撃沈確實ト認メ二十八日二二一〇掃蕩ヲ止ム。
- (5) 新井崎、燕護衛ノ鹿五〇八船國ノ前路掃蕩ニ威嚇投射ノ為出動セル護衛用漁船四月二十七日一三〇〇頃大瀬ノ二六度四五哩ニ於テ敵艦望鏡ヲ發見直ニ爆雷攻撃シ以テ燕一三三〇



ルニ八一三六八一三九一四ニ於テ高月威投射ヲナス北洋丸大斗丸ヲ急派飛行機ト協同掃蕩セシメタル處ニ五三〇燕ルニ八一三六八一三九一四ニ於テ油及氣泡ノ湧出シツアルヲ發見爆雷攻撃ヲ加ヘ油ハ幅ニ〇米長サ約一哩ニ擴大ス更ニ掃蕩續行中一八四五北洋丸曾津高崎ノ二六度一〇哩ニ於テ敵替望鏡ヲシキモノヲ認メ爆雷攻撃ヲ次テ北洋丸ノ誘導ニ依リ新井崎燕火斗丸爆雷攻撃ヲ加ヘタルモ北西ノ風波高ク視認困難トナル爾後掃蕩ヲ續行スルモ敵情ヲ得ズ二十九日〇六〇掃蕩ヲ止ム

- 五月一日有幸丸及高船ニ隻名頼ヨリ古仁屋ニ回航中同海面附近一帶ニ重油ノ流出シツアルヲ認メ其ノ後該方面ニ於テ敵替ヲ活動停止セルコト等ノ點ヨリ判断シ撃手沈確實ト認ム
- (6) 四月二十九日一四二八八二八三〇八一三〇五五ニ於テ掃一五敵替ノ雷撃手ヲ受ケ直ニ爆雷攻撃ヲ加ヘタルモ効果不明新井崎燕第一拓南丸竹東丸北洋丸ヲ急派飛行機ト協同掃蕩セシメタルモ敵情ヲ得ズ五月一日一三三五掃蕩ヲ止ム
- (7) 四月二十九日一九二五久米島敵替ノ砲撃手ヲ受ケタルヲ以テ第五十一橋州丸太安丸第三南薩丸第十三長運丸第五大成丸

ヲ急派掃蕩セシメタルニ更ニ四月三十日一四五五五二六二四八一三五一三八ニ於テ油槽船(船名不明)敵替ノ雷撃手ヲ受ケ沈没セルヲ以テ掃蕩隊ヲシテ該地点ノ掃蕩ヲ行ハシメタルモ荒天ノ為敵情ヲ得ズ五月三日〇九〇〇掃蕩ヲ止ム

三 作戰指導

(1) 我ガ企圖

- 強力ナル護衛艇ノ直接護衛ノ下危險海面ヲ突破シ稼行率ヲ大ナラシムル強行策ヨリハ寧ロ稼行率小ナルモ嚴重ナル航空機ノ哨戒ヲ直衛ノ下敵替情況ニ應ジ避航シ敵替焦燥ノ余リ船固ヲ探求スル好機ヲ捕捉シテ一舉ニ撃手滅スルノ策ヲ講ズ之ガ爲
- 一 列島線ノ接岸航行
  - 二 中間基地利用ニ依ル危險海面ノ晝間航行
  - 三 敵替情況ニ應ズル航路ヲ發航日時ノ變更
  - 四 敵替襲撃手ノ算大ナル沖繩航路ノ船固ニ重裝備艦艇ニ隻以上ヲ根幹トスル護衛艇ノ配備
  - 五 船固出入港時ニ於ケル艦艇航空機ニ依ル前路掃蕩ヲ極力